

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成 28 年度第 5 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	小金井市ごみ対策課		
開催日時	平成 28 年 12 月 21 日 (水) 午後 3 時から午後 6 時まで		
開催場所	小金井市中間処理場事務所棟 研修室 I		
出席者	委員	<出席者：12 名> 渡辺会長・岡山副会長・大江委員・岸野委員・林委員・多田委員・黒須委員・齋藤委員・石田委員・北澤委員・杉本委員・吉田委員 <欠席者：3 名>	
	事務局	小野ごみ対策課長・藤田ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・富田・穂山・立川・佐藤・玉井	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	0
会議次第	1 開 会 2 報 告 平成 28 年度燃やすごみの月別比較について 清掃関連施設整備基本計画検討会議 第 1 回報告 専門委員会（未活用資源（可燃ごみに含まれる資源化可能物）の有効利用方策の調査・研究に関する小委員会）第 2 回専門委員会開催の報告について 3 議 題 平成 29 年度一般廃棄物処理計画について		
会議結果	別紙審議経過のとおり		
提出資料	別添のとおり		
その他	次回開催予定 平成 29 年 1 月 24 日 (火) 小金井市役所第 2 庁舎 8 階 801 会議室		

審議過程（主な発言等）

渡辺会長	<p>これより平成28年度第5回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。</p> <p>本日は、山田委員から欠席、清水委員から遅刻又は欠席の連絡が入っている。</p> <p>それでは、事務局から配布資料について確認をお願いします。</p>
玉井減量推進係主任	(配布資料確認)
渡辺会長	<p>前回の会議録について意見・修正はあるか。特にないようなので、事務局にて公開の手続きを執らせて頂く。</p> <p>事務局から提出された資料について報告と説明をお願いします。</p>
玉井減量推進係主任	(「燃やすごみの処理量の昨年度との月別比較について」説明)
岡山副会長	(「可燃ごみに含まれる資源化可能物の有効利用方策の調査・研究に関する小委員会 第2回」についての報告)
渡辺会長	質問等はあるか。
林委員	<p>年度毎の計画で行われてきた組成分析では、我々が分別を検討する際には、そのままでは使えないという認識だったと思う。そこで今までのやり方に替わって、収集段階で組成分析をしたほうが良いのではないかという話があったと思う。しかし、最終的にそうするかどうかについては決まっていないということか。</p>
岡山副会長	そうだ。
渡辺会長	実現の可能性については、事務局と相談しなければならない。
多田委員	年4回やっている予算を2回分に縮小して、より精度の高い組成分析をしなければ意味がない。
杉本委員	2回くらいやっていると思うのだが。
渡辺会長	<p>今の基本計画を作るに当たって実施されている。</p> <p>去る12月5日に開催された「第1回 清掃関連施設整備基本計画検討会議」について、大江委員に報告をお願いしたい。</p>
大江委員	(検討会議概要説明)
小野ごみ対策課長	(検討会議資料説明)
渡辺会長	質問及びコメント等はあるか。

審議過程（主な発言等）

石田委員	二つの候補地の雰囲気はいかがか。自治会の人には来ているのか。
大江委員	<p>小金井市中間処理場運営協議会からは、三島芳郎さんが選出されている。二枚橋焼却場跡地周辺自治会等協議会から選出の委員は第1回目の協議会の中では決まらなかったもので、委員として入っている環境部長が代行として協議会の様子を説明した。私はどちらの協議会にも出席していないので、ごみ対策課長に出席した雰囲気等を教えて頂きたい。</p>
小野ごみ対策課長	<p>まず、中間処理場運営協議会だが、既存の運営協議会の中で今後の清掃関連施設の整備に当たっての協議に関しても行うということで、ご理解を頂いている。一方、二枚橋跡地周辺自治会等協議会については、今回初めて集まって頂いた方々であり、現時点では地元の方々からは、この協議会で何をして行くのかとか、どういう方向に持って行くのか未だ分からないので、色々なことを少しずつ聞いて行きながら協議できるかどうかというところも含めて探って行きたいというような話があった。また、両協議会ともに会議録に関して決定していないので、当日の雰囲気ということで話をさせて頂いた。</p>
佐藤ごみ処理施設担当専任主査	(新可燃ごみ処理施設整備・運営事業について報告)
渡辺会長	<p>それでは、前回の審議では、目標設定に関しては、基本計画の設定に基づいて、1人1日当たりの排出量に推計人口を掛けた数値をベースに設定することで良かったかと思う。問題は、処理計画の案の16ページ以降の計画項目と施策の目標の設定に関しては、全てではないにしても、目標を設定する施策としない施策を立てて行こうということだった。</p> <p>16ページ以降に出されている計画項目と施策について(1)から順番に決めて行きたい。特に目標設定したいのは「(1)発生抑制を最優先とした3Rの推進」で、(2)以降に関しては事務局からの素案では、ほとんど実施目標は入っていない。(1)の施策に関してどのような目標を設定していくのかということになる。実施目標を立てないということになると、どのような形で掲載するのかということが課題になる。</p> <p>それでは、林委員に提出して頂いた参考資料について説明をして頂きたい。</p>
林委員	(参考資料説明)
渡辺会長	<p>重点項目とか優先度の話があったが、現状でも最優先強化とかという表示があるがそれとは別という考えなのか。</p>
林委員	<p>最優先強化とか充実とか強化という項目はこの中には反映してい</p>

審議過程（主な発言等）

<p>渡辺会長</p>	<p>ない。それは再確認して選び直していったらどうかと思ったからだ。29年度にやることの中で特に重要なことを選んでいけば良いのかと思う。実際に何をやるのか明確にすることが重要だ。</p> <p>従来は、結果になるほうに関して、最優先とか強化とか充実とか付けているが、手段のほうにも優先順位を示したほうが良いのではないかというご提案だ。</p>
<p>林委員</p>	<p>やることに優先順位を付けるイメージだ。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>今までは、結果としてこういうことを達成しようという方に充実とか強化とか最優先強化とかが付いていた。</p>
<p>岡山副会長</p>	<p>27年度の評価をする時に私達も随分悩んだ。計画項目は計画というよりも理念だ。リデュースが最優先で、その次がリユースで、その次がリサイクルであることは間違いない。しかし、それを行政がどう施策化するか、行政として何をやるか。一番進めなくてはならないのはリデュースだが、行政がやることは、研究調査が二つと普及啓発が二つで、普及啓発することしかできない。計画項目でやらなくてはならないことの重み付けと施策がうまく連動していないのではないかと思う。施策としてやるべきことの優先順位を付けることも良いが、これを行政としてやるということを私達が理解して、且つどうあったら良かったのか評価できる状況にどう持って行けるか、それを改善点として来年どう持って行けるのか、先まで見た上で整理することが重要だと思う。</p>
<p>林委員</p>	<p>具体的にどう進めるか考える必要がある。同じ内容が重層的に出てくる。如何に啓蒙活動を伝えるかを何度も表している。何ができるのか、何をやっていくのか、ここでブレイクダウンする必要がある。前年度の評価の低いものに着目して見て行く必要があるのではないか。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>審議会でどこまで規定するのか、私達の役割はどこまでなのか。</p>
<p>林委員</p>	<p>基本的に大方針だけでなく、審議会の中で共通認識として次年度に重点的に取り組むべき項目を押さえて頂きたい。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>施策に関しては、どれだけのエネルギーを注がなければならないか、市のほうが良く分かっているだろうし、こちらで固めてしまうと市のほうが動きにくいということもあるだろう。事務局の意見を伺いながら、審議会として是非やって欲しい項目を考えて実施目標を立てていくことになると思う。</p>
<p>石田委員</p>	<p>施策の生ごみや食品ロスの調査だが、やることは結果を出したい訳なので、今年は調査・研究でも良いが、来年は施策を考えて、再来年</p>

審議過程（主な発言等）

<p>岡山副会長</p>	<p>に実施するということを踏まえて、3年計画の中の1年目がここになっているのであれば、最優先強化になるが、そうでなければ、ここに挙げている調査・研究は何のためにやるのか見えない。先々、どう積み上げていくつもりなのか、お聞きしたい。</p> <p>専門委員会は今年度から立ち上がっている。昨年は、例えば分別項目をやろうと思ったとしてもいきなり施策化できないので、3年計画の3年目で施策化を考えたときに、前段階としてまずここで調査・研究してみて、できることを確認した上で、審議会から上がっているというステップになる。これは、単年度計画なので3年計画と書くわけには行かない。私達は、いずれ施策化したいということを念頭に置いて、今研究段階にあることをご理解頂きたい。逆にここで項目として「調査」が入ったということがステップアップだと考えて頂ければと思う。</p>
<p>大江委員</p>	<p>林委員の意見に賛成だ。しかし、例えば転入者への啓発など施策がないわけではない。説明が私達に伝わっていないので中身はどうなのかということになる。例えば、前年度の5ページ以降で、やったことを見ればもう少し分かり易くなる。今年度についても事務局から最優先強化の中身を説明してあると思うが、この中でもう一度具体的に出て来ていないのかも知れない。行政の活動として入っていると思う。</p>
<p>林委員</p>	<p>転入者への啓発強化に関して言えば、以前、別の場所で市民課と連携して渡しているという程度の説明しかなかった。ごみゼロ化推進会議の中では、第2庁舎の一角にあったごみの分別のサンプルブースを充実させたらどうかとか、ごみゼロ化推進委員をそこに配置して説明させてはどうかとか、という話が出ている。しかし、審議会の年度計画の中にはそこまで踏み込んでいないので、市としては審議会の皆さんも言っていないという形になっている。限られた時間の中で細かい議論をするのは難しいが、そういう組織を活用して欲しいと言って頂ければ動けるのではないかと思う。</p>
<p>大江委員</p>	<p>生ごみに関しては、岡山委員の発言のようにステップアップのスタートをしたところだ。また、啓発強化やライフスタイルの問題に関しては、ずっと施策をやってきて、小金井市はリユース、リサイクルで全国トップレベルまで進んできたので、これからはリデュースだというときに啓発やライフスタイルにいつてしまう。情報発信などが中心にならざるを得ない側面があって、どうしても抽象化してしまう。しかし、そこが一番重要なところを最優先強化しなければならないところがリデュースだが、中身が具体的な効果と結びつくところまでは詰めていないし、出来ていないのが現状だ。項目は挙がっているが、それが効果あるのかないのか。</p>
<p>林委員</p>	<p>項目は挙がっているが、それを具体化する。例えば自治会・町会と</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>の連携がある。どのくらいの自治会・町会で集団回収しているのか、その量がどのくらいで、増えているのか減っているのか、それをやることによって、小金井市のごみの費用の問題も絡むのが、例えば新聞を自治会・町会や子ども会で処理してもらえたら、市が回収するよりも回収の手間も減れば、掛かる費用も少なくて済む。そういうことを市民に伝えているのか。市報やカレンダーに記載しているが、もっと広報の仕方を考えて、各自治会・町会・子ども会にやってもらえればもっと減量出来るかも知れない。更に具体的に何をやるのか示してもらえると皆が動けるのではないかと思う。</p>
<p>大江委員</p>	<p>おっしゃるとおりだ。この審議会の中でも、ごみゼロ化推進会議との連携や強化について前委員の加藤さんから出されていたが、予算や人員の問題があって具体的な協議があったと思うが、施策の実施案やタイアップしての動きまでは繋がっていなかったところが色々な面であったと思う。28年度は生ごみの調査・研究が始まったところだ。啓発・強化のところで、協力してやることを立ち上げていくという風な提案をしながら、今時間的にないかも知れないが、3月までの検討でやって来年度に繋げたいことを出して、その先を模索したほうが良いような気がする。対応して来なかったわけではないが、おっしゃるところまで到達しなかったことも事実だ。行政事務局とのより緊密な関係を作りながらやっていく必要がある。</p>
<p>岡山副会長</p>	<p>ごみゼロ化推進委員による活動の推進は、市としてバックアップするというのが市の計画には入っている。しかし、施策としては市とごみゼロ化推進委員の情報交換で終わっている。情報交換をした上で、2者間で、例えば、ボランティアでごみゼロ化推進委員が主催してごみゼロ化キャンペーンをやるということがあれば、それが施策に載ってくるのはありだ。ただ、それが一足飛びに5番の啓発・強化のところの施策として、ごみゼロ化キャンペーンをやるのか、準備説明会をやるのか、という話になるのかどうか判断できない。この場で決めることなのか。</p>
<p>林委員</p>	<p>基本計画に関して言えば、「本市では、転入者に対して生活を始めるタイミングでの啓発を強化する」と書かれている。だから、やらなければならないことは分かっている。しかし、どうやるのかということまで至っていない。どうしてもやらなければならないことに関しては、もっと踏み込む必要がある。</p>
<p>石田委員</p>	<p>学習会等々の中に「学習機会への参加及び学習の場の提供」は、年40回と書かれているが根拠が分からない。実際にできているのは18回だ。月1回以上やっていて、結構やっているように見える。40回というのはどういう根拠なのか教えて頂きたい。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>今までの議論を踏まえてうえで、1から10までひとつずつ取り上</p>

審議過程（主な発言等）

<p>林委員</p>	<p>げて行きたい。</p> <p>減量キャンペーンは残したほうが良いと思う。</p>
<p>岡山副会長</p>	<p>16ページの頭は、「学習機会への参加及び学習の提供」年40回だが、これは全ての所にほぼ入っている。しかし、これは5番の啓発・強化か6番の環境教育だ。私は、小学校を回るといより、公民館等でごみゼロ化推進委員が主催して講話するとか、市が主催するごみに関する講座の目標が年40回だと理解しているのだが、いかがか。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>林委員の資料でも学習機会への参加が何を意味するのかという質問も出ている。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>学習機会の評価の部分は全ての項目に当てはまる。ライフスタイルということテーマとして学習機会を提供して欲しいということであれば、それはライフスタイルの提供だ。リサイクルやごみの行方を知りたいということであれば、リサイクルに関する学習の機会の提供だ。全ての項目に当てはまるということで、平成27年度の実施計画にはこのような形で載せさせて頂いた。回数だが、小学校で環境学習が始まる4年生を持つごみに関心のある先生から依頼があれば職員が講座を行っている。他に老人会等から声掛けがあれば、少人数であっても出前講座を開いている。平成26年度基本計画作成当時は30回程度行っていた。よって、27年度作成のときは目標として40回とした。</p>
<p>杉本委員</p>	<p>18回というのは、先方から呼び掛けされた回数か。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>平成27年度は18回だったので、もっとPRして増やして行きたいところだ。地域の70名ほどのごみゼロ化推進委員に地域の方々に声掛けをお願いすれば、40回以上になるのではないかと考える。</p>
<p>石田委員</p>	<p>数は結果だ。効果が出るような適切な数にすべきだ。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>27年度にも効果を期待するような目標の設定も議論になった。しかし、その効果为目标に設定することは難しいので、目標を設定するに当たっては、学習機会を提供する数を増やして、どんな小さなテーマでも良いので、色々なことを市民に知ってもらおうということ为目标設定とした経過がある。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>今までは、具体策が少なかったのではないか。例えば今やっているキャンペーンは古いのでコピーを変えてはどうか。出前も、40回とか18回ではなく、中身だ。具体的にどういう内容でどうやるかが大切だ。回数ではない。市が色々不可能なことにもチャレンジしているだろうが、私達に伝わってこない。動的なことで私達も少しでもお手</p>

審議過程（主な発言等）

<p>岡山副会長</p>	<p>伝い出来ないかと思っている。</p> <p>具体的な提案をさせて頂く。学習機会の参加及び学習の場の提供と広報媒体活用の周知は色々なところに出て来る。普及啓発と環境教育の部分は削除した上で5と6にまとめて、その代わりに5と6の啓発強化の強化並びに環境教育のところを林委員のご指摘などを加味して、具体的な施策を充実させてはどうか。啓発活動は何の啓発なのか、それは3R全部だし、環境教育をしているというアナウンスでもあり、という内容を下にどこを対象としているのかを書く。また、学習機会の参加及び学習の場の提供は文言が分かりにくかったので変える。具体的に要請があれば出前講座をやるとか、という書き方に加えて、且つ内容としては3R並びに循環システムなどに関してを対象とする。5と6にまとめて、且つその中では何を対象としているのか、ということをも具体化するのはいかがか。また、キャンペーンやイベントも啓発に入れ、施策を応援してくれる市民の人材育成もあっても良いのかと思う。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>環境教育というのは手段なので、環境教育のほうを消して、残りのところに振り分けてもいいのではないか。</p>
<p>林委員</p>	<p>これを読んだ人が何を狙っているのか分かるようにブレイクダウンすべきだ。学習機会の参加及び学習の場の提供の部分だが、主語が分からない。</p>
<p>大江委員</p>	<p>15ページ以降の施策の展開の中には、一番具体的なものは捨象されて出て来ていない。リユースやリサイクルは、ルーチンワークとして市が行っている。こういうもの以外のところでの項目を出していくところようになってきた、というのが経過だ。分別の徹底は、充実強化としか出していないが、今あることを充実強化させるという意味なので、最優先強化と強化、充実の三つに分けてやっているが、根底にはルーチンワークがあるわけだ。そのルーチンワークを外しているので見えていないから、項目だけが具体性に欠けるのかも知れない。一番具体的なものはあるということを前提において、林委員の発言にあった環境教育や分別の実施は、分別の徹底のところを持ってくとフィットする。小・中学校で1回ずつ分別実習をやれば最高だ。来年度できるかどうかは別にして検討していけば、分別の新たな施策になって来る。やっていないのではなく、やって来ていて尚且つそれが整理したり、強化したりしなければ目に見えなくなっているほど、沢山やってきている。見直しながら、今言ったような趣旨を盛り込めれば来年度以降に繋がるのではないか。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>趣旨を盛り込むというのは、具体的にどうすれば良いか。</p>
<p>岡山副会長</p>	<p>例えば、1であれば林委員の発言のようにごみを出さないライフス</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>タイトルを教える出前講座をやるとか、3や4であれば、分別に関する出前講座をやるとか、個別に施策として分かりやすく並べるのも一案だと思う。</p>
<p>大江委員</p>	<p>来年度に向けてこの時期にやれることは限られている。しかし、ゼロ化推進委員による活動の推進のところに何をやるか検討するというのは入ってくる可能性はある。ただ、事務局としてバックグラウンドが具体的に何もないところでやるのは厳しい。よって30年度の大きな転換期に向けて方向性を出したらどうか。</p>
<p>石田委員</p>	<p>数を書くと自分で自分の首を絞めることになる。ここに書く必要はないが、計画の根拠の内訳を考えて戦略を考える必要がある。また、確認したいのだが、17ページの5の啓発活動の強化の効果的な啓発活動の調査・研究だが、これは誰がやるのか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>行政がやる。</p>
<p>岡山副会長</p>	<p>スマホアプリは既にあるので施策から外れている。しかし、普及施策として新たなアイデアがあるかも知れないので、常に意識して置く必要がある。</p>
<p>林委員</p>	<p>スマホアプリ利用者アンケートというのは、スマホを使っている人のアンケートを取って更に改善するところを調査・研究するという事でクエスチョンマークを付けた。スマートフォンを活用した周知の推進を新しい項目に入れているが、また、効果的な啓発活動の調査・研究に含まれるのかと思っている。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>市報にくるカメ出張講座が載っているが申込みはあったのか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>学校に行っているのもくるカメ出張講座と見ており、申込みはあった。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>私は、6年間公民館の役員をしていたのだが、知っていればこの講座をやっていたかも知れない。認識不足だった。</p>
<p>岸野委員</p>	<p>夏休みの生ごみ投入の際に、実際に生ごみ処理機を持って来て説明してもらったことがある。</p>
<p>杉本委員</p>	<p>くるカメ講座や市民まつりの分別クイズなど具体的なものであれば市がやっていることを私達も理解できるので、それを書けば良い。しかし、広報媒体とか学習機会とか抽象的なので分からない。学習機会などは別に項目を作った方が良いのではないか。</p>
<p>岡山副会長</p>	<p>普及啓発並びに環境教育に関する項目は、1～4から外して良いと</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>思う。その上で、環境教育の普及啓発の学習機会への参加及び学習の場の提供というのは、学習機会および学習の場の提供くらいで内包してはいいかがか。更に普及啓発のところに何度も出ているキャンペーンやイベント、ごみカレンダーの発行は戻しても良いかも知れない。また、7番のごみゼロ化推進委員の情報交換だけではなく、ごみゼロ化推進員と市の合意の上で施策化できるかと思う。それを含ませる為には、施策化の検討だとか、協働事業の検討を加えてはいいかがか。6番に集約するのが良いのではないか。</p>
岸野委員	<p>市民向けに市外ごみ処理施設の見学会があったが、参加者が少ない。</p>
渡辺会長	<p>重複しているものはどこかにまとめて入れるという考え方で良いのではないか。5、6、7の項目に関しては、基本計画で出ているので、その路線は継承したほうが分かり易いと思う。</p>
北澤委員	<p>計画項目、取組内容だが、今後やっていくべき施策に近いので落とし込んで行くと具体的に何をやるのか施策になっている。計画項目と施策の結びつきがよく分からない。また、どれだけやればどれだけ効果があるのか分からない。基本的にこの形は崩さずに、評価の中で明らかにしていけば、来年度の計画作りに反映できるのではないかと思う。また、次回までに施策の中で整理統合し、あるいは、具体的表現に変えたら良いのではないかという意見を持ち寄るのはいかがか。全体が崩れてしまったら分からなくなってしまう。</p>
林委員	<p>私が整理統合したものは、この提出資料だ。項目の増減はあるが、原案が形として崩れないようにやったつもりだ。</p>
北澤委員	<p>随時などの表現を改めたほうが評価し易いのではないか。また、具体的に数字は書かないほうが良いと思う。</p>
林委員	<p>市が姿勢を示してくれないと、市民はついていけない。合格点を狙った目標設定は如何なものかと思う。</p>
杉本委員	<p>実施目標を削るという話が出てきたが、それは良くないのではないか。前年度と来年度のものには、キャンペーンの実施はなくなっているが、やるのであれば入れたほうが良いと思う。</p>
渡辺会長	<p>計画項目の1～10は触らないことにしよう。施策のところは、前年度に比べるとかなり削ってまとめているが、これをどの程度手を付けるか難しい。</p>
林委員	<p>私が作ったのとオリジナルを比べて、あるいは皆さんの意見を言ってもらえば修正は複雑な作業ではない。</p>

審議過程（主な発言等）

多田委員	前回参考資料として出された市の修正提案は生きていると考えるのか。
富田減量推進係長	特にとらわれる必要はないが、部分的に採用して頂ける部分があるのなら、活用して頂けると良いと思う。
渡辺会長	路線からは外れていないように思う。
林委員	私が作った資料だが、施策ではないので「補助交付件数」の部分の「件数」は消して頂きたい。
大江委員	基本路線と次に向けた方向付けということで、大変良い意見が出ていると捉えてやって行ったらどうか。
渡辺会長	方向というのは、施策のところは触らないということか。
大江委員	触れるところは触って良いが、枠組みは大きくは変えないということだ。
林委員	諮問案でフリーマーケットの支援とは何をやるのか。市は何をやるかと考えて諮問案を作っているのかを押えて進めていくべきだ。
岸野委員	9月は貫井神社の祭り、10月か11月はコンサート開いたことがある。そういうふうにならなくて考えていかなければならない。
渡辺会長	重複しているものはまとめるのも方法かと思うが、いかがか。ここで方針を決められれば、次回に向けての道筋が付けやすいと思う。施策は同じものは繰り返さないというかたちの表示の仕方にするということが良いか。
大江委員	一律でなくても良いのではないか。事務局は分かると思う。
岡山副会長	ごみ相談委員とごみゼロ化推進委員の連携の部分だが、ごみの分別のところだけごみ相談委員になっていて、ごみゼロ化推進委員との情報交換も2、3箇所出てくるので、一律に削ると言っているのではない。
林委員	推進会議が定期的にかかれているが、それを情報交換と呼ぶのは疑問だ。ごみゼロ化推進会議の活性化というような文言にしている。
渡辺会長	活性化と言うとごみゼロ化推進会議だけの問題になってしまう気がする。市のほうもごみゼロ化推進会議と協調して何かやるという方向性もあるのかと思う。

審議過程（主な発言等）

林委員	<p>ごみゼロ化推進会議は市が主催するのではなく、支援しているという位置づけだ。</p>
杉本委員	<p>以前から市の下請けになっている形から変えて行こうという動きがある。数年前、ごみゼロ化推進会議は提案できるということを総会で決めたことがある。ごみゼロ化推進会議に関する法律を変えていく必要があると思う。</p>
大江委員	<p>ごみゼロ化推進会議は、非営利の任意団体という位置づけで良いのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>条例の中でごみゼロ化推進委員の任務が謳われている。ごみ対策課が行う施策に対して協力して頂く団体だ。</p>
渡辺会長	<p>この方針で行くと、1から10までの計画項目は変えない。施策に関しても、大幅には変えない。統合、文言の変更、表現の仕方、実施目標について各自考えてきて頂きたい。 事務局に対して、要請することはあるか。</p>
林委員	<p>冒頭でお願いしたが、諮問案を作成したときに何故こう書かれているのか、どこかに説明を書いて頂きたい。 ごみゼロ化推進委員との連携と書かれているが、どんな連携を考えているのか。</p>
杉本委員	<p>リサイクル事業所との連携も書かれているが、何をやっているのか、これからどうしようと考えているのか、簡単でも良いので説明が欲しい。</p>
小野ごみ対策課長	<p>市に対する質問がある場合は事前にご連絡頂きたい。</p>
大江委員	<p>林委員から事前に資料が提出されているので、クエスチョンの部分についてはお答え頂きたい。</p>
小野ごみ対策課長	<p>それでは順に説明する。生ごみの水切り及び自家処理等の推進に関する調査、研究、未活用資源の有効利用検討小委員会に含むかについて、含む。 フードドライブの試行結果を受けて、誰が何をするかについて、本格実施に向けて関係課と情報共有を図って行きたい。ごみ対策課は食品ロスを削減する為に集めてフードドライブに持って行くだけなのですぐできる。しかし、食育推進の観点からも考えなければならないのではないかと、もらう側のことも考えて計画をすべきではないかと、議会からの意見もあるので、情報共有を図るということで計画しているところだ。</p>

審議過程（主な発言等）

林委員	計画立案を29年度にやるのか。
小野ごみ対策課長	拠点回収をしようかと思っている。今年度、市民まつりでやったが、1日6件。やれば持って来てくださる方はいるので、計画に盛り込むのであれば、拠点回収実施という形になる。
林委員	調査・研究ではないのか。
小野ごみ対策課長	調査・研究且つ実施だ。
林委員	実施目標に何を書くのか。
小野ごみ対策課長	私達は、いつもアンテナを広げて、全国の自治体のごみに関する取組を調査して、市でできることであれば、と前向きに検討したいと思っている。食品ロスに関して言えば、松本市が行っている3010運動というのは、経済課を巻き込んで業者に働きかけているところも調査・研究になると思う。
林委員	一般的な名称で調査・研究と言っているのか。
小野ごみ対策課長	<p>そうだ。</p> <p>有効利用先の確保（リユースできるもの）について、特定の資源物の回収し、リユースされるまでのルートを構築していきたい。拠点回収している靴・かばんはリユースしている。新たにリユースできるものがあれば、それを扱っている業者が見つければやって行きたい。</p> <p>くつ・かばん類を含む、分別区分及び回収方法の見直しの検討について、職員体制を考慮し、増やすことができるかどうか検討している。毎回100キロ以上集まっており、昨年より増えている。</p> <p>リサイクル事業所との連携について、市ではなく、シルバー人材センターの事業だ。リユースできる物を修理して売っている。連携という部分では、補助金を交付している。</p> <p>フリーマーケットの支援について、後援がないと実施できないので後援することを支援と呼んでいる。</p> <p>リユース推進施策の調査・研究について、下着類を28年度途中から古布で出して頂いている。重複するがごみを資源化するルートについてアンテナを広げてやって行きたい。</p> <p>ごみ相談員との連携について、ごみゼロ化推進委員会の方にはお願いできるのは、条例に書かれている任務の範囲内だ。任務の範囲で、ひとつの取組として、くるカメ出張講座について地域の方々への周知などをやっていきたい。地域に根付いているのは、ごみゼロ化推進委員の方々なので、そういった人的資源を活用して行きたい。</p> <p>分別方法の見直しの検討について、平成29年度4月1日から枝木類の分別方法の見直しをする。現在、一部は申込み制だったが、全量</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>申し込みなしで戸別回収し、資源化する。これもアンテナを広げて各市の状況や取組の中で、小金井市がやっていくことが可能であれば、費用対効果を考慮しながらやって行きたいということでの見直しだ。</p> <p>資源物の戸別・拠点回収について、拠点数を増やすことを検討していかなければならないが、拠点回収箇所を増やすよりも、自主回収店舗を増やしていく方が効果的である。これもごみゼロ化推進委員の方々の協力なくては出来ないことだ。</p> <p>市民土曜生ごみ投入リサイクル活動の支援について、市報で知らせたり、チラシ作成の際にお手伝いさせて頂いている。学校給食のない土曜日に行っている事業なので、市民ボランティアがやっている事業を私達が支援している。土曜生ごみ投入リサイクルの会と意見交換しながら私達ができることを増やして行きたい。</p> <p>地域農業者、JA、市内農産物取扱店との連携について、小金井市内の農家のうち、私達が作っている生ごみからできた肥料を使っている農家は少ないので増やして、市内で資源循環を増やして市民にアピールしていきたい。JAとの連携だが、農家は事業活動を行っているので、畑から出たごみを私達は集めていない。しかし、毎年大量に出ているので、農業委員会から何とかして欲しいと言われている。他市の事例では、JAが一括して集めているところもあるので、JAとの意見交換の場に私達が入って、情報を提供するのでも連携かと思う。</p> <p>転入者への啓発強化について、既に色々な活動をしている。不動産屋さんにごみカレンダーを置いて転入者に配ってもらったり、市民課でカレンダーを渡すときに様々なチラシを配ってもらっている時期もあった。また、市民課の空いたスペースに転入者向けのDVDを流していた時期もある。転入者の啓発の強化は、色々な方々の意見を聴きながらやって行きたい。ごみゼロ化推進委員の方から意見をもらっているが、現時点では物理的に困難だ。場所がないのと、市民感情だ。他市だと転入者だけの窓口がある。しかし、小金井市の場合、住民票の交付も印鑑登録の交付も全部一緒に、転入者もそこに来る。3月4月は来庁者が毎日400～500人訪れる。しかし、声を掛けても転入者になかなか当たらない。ほとんどが住民票の交付などだ。転入者が多いことによって待ち時間が長い。その状況の中で、私達が転入者を探して声掛けをするのは困難であるし、場所もない。</p>
林委員	<p>具体的な対応策を検討したいところだ。武蔵野市では限られた日数で何人かが対応していると聞いている。</p>
小野ごみ対策課長	<p>個別に対応させて頂きたい。続いて説明する。</p> <p>スマートフォンを活用した周知の推進について、何でもやっている。様々なお知らせを送らせてもらっている。</p> <p>効果的な啓発活動の調査・研究について、市民が必要としている情報を的確な時期に正確に発信することが必要であると同時に、私達がお知らせしたいことをどうやって分かり易くお知らせしていくかが重要だ。何をどうスタートするかというのは、現時点ではお答えでき</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>ない。</p> <p>ごみゼロ化推進会議の開催について、市は支援ではなく、主催ではということだが、ごみゼロ化推進会議という組織が条例の中に定められているので、基本的にはごみゼロ化推進会議が主体だ。</p> <p>ごみゼロ化推進会議の活性化について、参加者減少にどう対応するかは課題だ。</p> <p>ごみ相談員制度の再構築について、ごみゼロ化推進員の中でごみ相談員になりたくないという人が多いのは大きな課題だ。</p> <p>地域ネットワークの構築について、ごみゼロ化推進員との連携を図ることと、他にも様々な活動を行っている団体があるので、意見交換から始めなければならないと思っている。</p>
林委員	<p>自治会や町会との連携はどうか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>毎月市長が懇談会を持っている。事前にごみに関して質問等があれば環境部長が出て行って説明している。町会・自治会の回覧板の中に、ごみ対策課からお知らせさせて頂くことがあれば、掲載している。</p>
林委員	<p>ごみ対策課として、町会・自治会・子ども会と直接対話する機会はないのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>現時点ではないが、ほとんどの町会・自治会・子ども会が集団回収を実施しているので、そこを手掛かりにやって行きたい。</p>
林委員	<p>集団回収をしていないところに拡大していく余地はないのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>現在150団体が集団回収の登録をしている。具体的な割合は把握していない。</p>
富田減量推進係長	<p>マンションの管理組合数は把握できない。</p>
林委員	<p>集団回収への参加率も改善の目安になる。</p>
小野ごみ対策課長	<p>国・都への働きかけについて、現時点では、市長会などの大きな組織的要望への参加だ。</p> <p>個別指導について、行政回収の際に、分別不徹底の袋には貼紙をして置いて来ている。</p> <p>リサイクル推進協力店認定事業所の拡大について、現在の計画程度の拡大でよいとは思っていない。</p> <p>市と事業者による連絡協議会の設置について、林委員のご意見を個別にお聞きしないと答え出来ない。</p> <p>庁内向け検査の実施及び結果の公表について、庁内にごみゼロ化行動推進部会があって、各フロアにメンバーがいるので働きかけて、抜き打ち検査を行っている。</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>市職員に対する啓発について、新人職員研修で行っている。市長を中心に職員一人ひとりに小金井市が置かれている状況を繰り返し説明している。</p>
林委員	<p>小金井市の地域防災計画の基づく災害体制の整備だが、基本計画には、様々な状況を考えた対応を整備することが書いてあるが、整備の期限が明確に書かれていない。</p>
小野ごみ対策課長	<p>第1回目のときに岡山副会長から発言があったが、東京都が作っている最中なので、その経過をみている。</p>
林委員	<p>小金井市の地域防災計画はあるのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>別にある。ごみとして災害廃棄物の処理マニュアル、もしくは、災害廃棄物の処理計画を作らなければならない。</p>
林委員	<p>この文章の中には、整備していくと書いている。</p>
小野ごみ対策課長	<p>国が出した段階で私達は基本計画を作っている最中だったため、記載したものである。</p>
林委員	<p>ここには、災害が起こったら即必要になることばかり書かれている。それに対して、スケジュール感が全く出て来ないのでこれで良いのかと思った。</p>
小野ごみ対策課長	<p>スケジュール感がないということではなくて、具体的に何をどう計画を立てていくかについては、東京都も相当悩んで策定中だと思う。</p>
岡山副会長	<p>国から3.11を受けて作るようにと言われているが、都道府県のレベルというのは、具体的には一般廃棄物には手を付けない。よって、都が作ると言っても、都は都下の市町村に作るように言うだけだ。だから、着手するのはいつでも良いと思う。</p>
林委員	<p>是非、前向きに検討して頂きたい。 ごみ処理コストの検証、廃棄物会計の実績評価、評価結果の公開のところだが、実績をどう評価するのかと言うのが欲しかったので、施策の廃棄物会計の中に実績評価はハードルが高いかもしれないが追加した。</p>
小野ごみ対策課長	<p>全国統一の廃棄物会計のガイドラインが出されているがそれに基づいて廃棄物会計を出している市は多くない。各市独自のやり方で作っているため、他市との比較が出来ていない。他市との比較ができて初めて評価ができる。資源化しているものに関しては、其々の市で資源化施策が違うので、コスト比較をして、小金井市が資源化している</p>

審議過程（主な発言等）

岡山副会長	<p>施策を今後続けていくのか評価検討していかなければならない。</p> <p>目標を作って計画にするのであれば、ごみ処理単価を減らしていかなければならない。そこは本市の事情においては限りなく難しい。</p>
林委員	<p>目標よりも評価することが大事だ。</p>
渡辺会長	<p>では、次回に向けて宿題のほうを宜しくお願ひしたい。事務局からお知らせ等があればお願ひしたい。</p>
小野ごみ対策課長	<p>回答が必要である場合は、事前に質問等を送って頂けると有り難い。</p> <p>来年2月6日武蔵小金井駅、7日東小金井駅で市長、教育長、市議会議員、ごみゼロ化推進員と駅頭キャンペーンを行うので、是非ともご参加頂き、どのようなことをやっけていて、どういふ効果を求めているか体感して頂きたい。午後6時から1時間程度の予定だ。雨天や雪の場合は中止になる可能性もある。審議会ではないので自主的なご参加をお願ひしたい。</p> <p>更に、来年度から枝木の収集方法の見直しと同時に土曜日収集を止める。その説明会について今回の市報に載せているので、どこかの会にご参加頂きたい。</p> <p>次回、審議会は1月24日火曜日18時から市役所第二庁舎8階の801会議室にて行う予定である。</p>
渡辺会長	<p>それでは、これで散会としたい。</p>

以上